

## 2009年3月期の重要な欠陥等の分析（第1回）

2009年8月3日  
マネジメント・パワー・エクスチェンジ株式会社

マネジメント・パワー・エクスチェンジ株式会社(MPX)は、7月1日に2009年6月末現在で公表されている金融商品取引法に基づく内部統制報告書から、財務報告に係る内部統制の評価に関して「重要な欠陥」を報告しているものをまとめ、ご報告いたしました。

その後、すべての重要な欠陥を対象にその傾向を分析しました。今回は、「上場市場別」と「会社規模別」に分析した結果をご報告いたします。

7月1日にご報告した通り、重要な欠陥を報告している会社は56社ありました。

2008年度は内部統制報告制度の適用初年度ということもあり、各社とも内部統制報告書への記載内容は、質・量ともにさまざまでしたので、内部統制報告書から読み取れなかった背景等については、各社が適時情報開示等でリリースしている情報も合わせて分析の対象にしています。

弊社の分析結果が、皆様方の今後の内部統制の構築推進・有効性評価のご参考になれば幸いです。

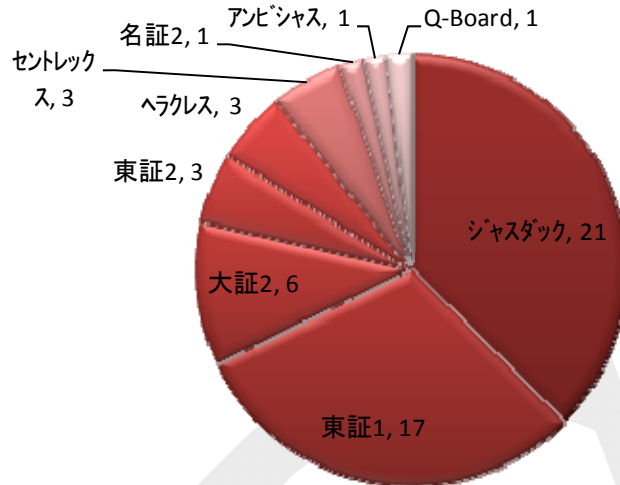
### 【分析項目】

1. 上場市場別の分析
2. 会社規模別の分析
  - (1) 連結子会社数
  - (2) 連結従業員数
  - (3) 連結売上高
  - (4) 連結税引前利益

## 1. 上場市場別の分析

重要な欠陥を報告している会社を上場市場ごとに分類すると、ジャスダック(21社)が最も多く、東証1部(17社)、大証2部(6社)と続いています。

特に、新興市場(下表の黄色)では29社と全体の半分を超えており、市場ごとに見ても重要な欠陥を報告した会社の割合が相対的に高くなっています。



市場	上場会社数 (3月決算)	重要な欠陥を報告 した会社数	重要な欠陥を報告 した会社の割合
東証1部(注)	1,358社	17社	1.3%
東証2部	341社	3社	0.9%
大証2部	175社	6社	3.4%
名証2部	78社	1社	1.3%
ジャスダック	547社	21社	3.8%
ヘラクレス	72社	3社	4.2%
セントレックス	12社	3社	25.0%
アンビシャス	5社	1社	20.0%
Q-Board	1社	1社	100.0%
合計	-	56社	-

(注) 東証1部と他の市場の両方に上場している会社については、東証1部に含めています。

## 2. 会社規模別の分析

重要な欠陥を報告している会社の規模として、「連結子会社数」、「連結従業員数」、「連結売上高」、「連結税引前利益」の各視点から分析を行いました。

この結果、全体的な傾向としては、下表に示した通り、上場会社としては比較的小規模の会社で重要な欠陥が報告されていました。

項目		会社数	割合(注)
連結子会社数	10社以下	43社	77%
連結従業員数	500人以下	32社	57%
連結売上高	500億円未満	40社	71%
連結税引前利益	10億円未満	47社	84%
4項目すべてに該当		26社	46%

(注)「割合」は、重要な欠陥を報告した56社に対する割合となっています。

小規模の会社では、主に親会社に原因が多かったようです。

- 財務経理部門に十分なリソース(人員数、専門知識)がない
- 子会社の決算をモニタリングできていない

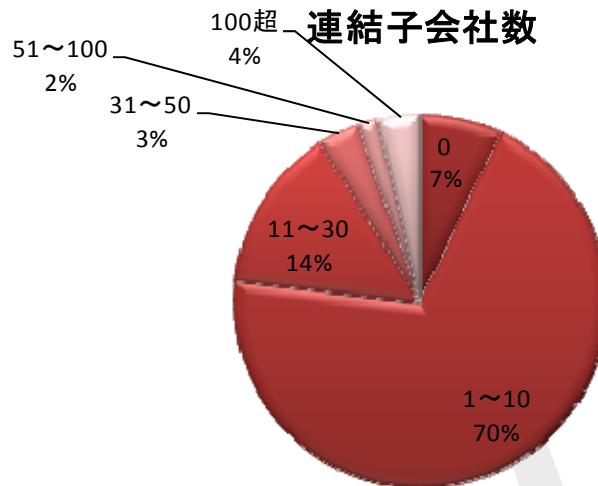
一方で、少数ではありますが、大規模な会社からも重要な欠陥が報告されています。この場合は、ほとんどの会社で子会社が重要な欠陥に関係していました。

会社規模による分析結果としては、小規模会社においては親会社に重要な欠陥の直接的な原因があるという傾向にあり、大規模会社においては連結子会社に重要な欠陥の直接的な原因があるという傾向があったと言えます。

以下、各項目の分析結果をご紹介します。

### (1) 連結子会社数

重要な欠陥を報告している会社のうち、約8割が連結子会社数10社以下となっています。



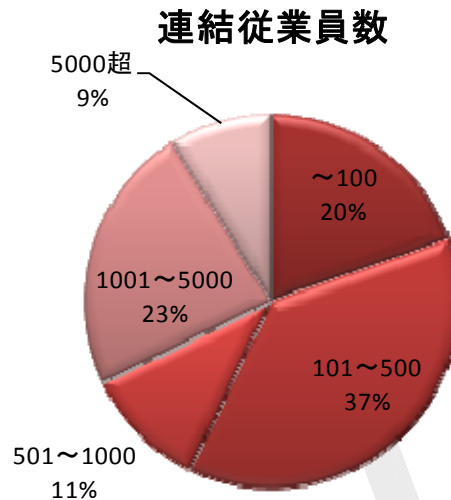
子会社数が多い≒会社(連結グループ)規模も大きくなるため、親会社単体に対する子会社1社当たりの重要性が相対的に低下します。そのため、子会社から重要な欠陥が発見されにくくなるという側面もあるかと思しますので一概には言えませんが、重要な欠陥は、子会社数の少ない≒会社規模の小さい会社から多く報告されています。

一方、連結子会社数が50社を超える会社(3社)が報告した重要な欠陥は、以下のように連結子会社に関係しています。

- 連結子会社において重要性のある不正な財務報告が発見された。
- 連結子会社の管理体制に重要な欠陥があった。(=連結子会社に何らかの重要な問題があった)
- 親会社と連結子会社において不正な売上計上が行われていた。

## (2) 連結従業員数

重要な欠陥を報告している会社のうち、約6割が連結従業員数500人以下となっています。



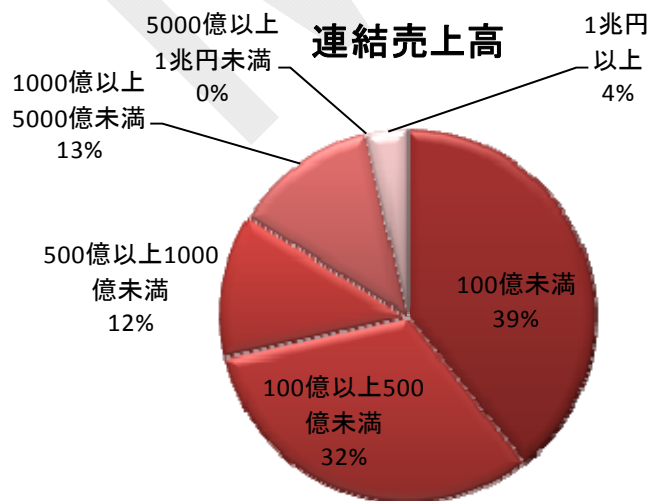
業種による違いもありますので一概には言えませんが、重要な欠陥は、連結従業員の少ない≒会社規模の小さい会社から多く報告されています。

従業員の少ない会社は、相対的に財務経理部門や内部監査部門の人員が少ない傾向にあります。このため専門的な会計知識が不足したり、十分なJ-SOX対応ができなかったことにより、重要な欠陥を報告することになってしまったという会社もありました。

また、下記(4)でも触れていますが、2008年度は全体的に業績が悪化していることもあり、リストラによって財務経理部門の人員を削減されてしまった会社も少なくないようです。このために、決算が遅れる、決算処理や開示資料に誤謬が多発する、といったことを原因として重要な欠陥を報告している会社も複数ありました。

### (3) 連結売上高

重要な欠陥を報告している会社のうち、約7割が連結売上高500億円未満となっています。

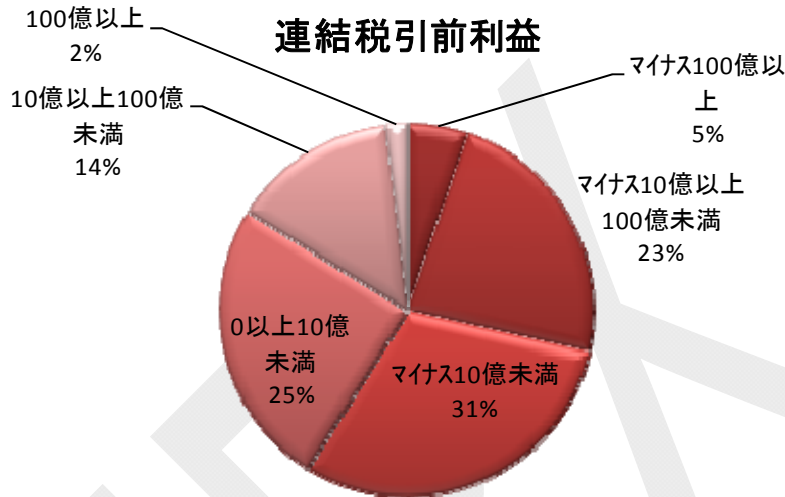


業種による違いもありますので一概には言えませんが、重要な欠陥は、連結売上高の少ない≒会社規模の小さい会社から多く報告されています。

特に連結売上高が 200 億円未満の会社数だけでも 31 社と半数を超えて (55%) おり、より小規模の会社に集中していることが分かります。

#### (4) 連結税引前利益

重要な欠陥を報告している会社のうち、約 8 割が連結税引前利益 10 億円未満となっています。



全体的な傾向として利益水準が低いのは、100年に一度といわれる世界的な不況の影響が大きいと思われませんが、期首時点での事業計画よりも実際の利益のほうが少ない会社が多かったのではないのでしょうか。

重要な欠陥を報告している会社においても、連結税引前利益が±10 億円未満の会社が半数を超えて (56%) います。仮に連結税引前利益の 5% を重要な欠陥を判断する際の金額的重要性とすると、これらの会社においては、金額的重要性が 5,000 万円よりも小さくなります。期首時点よりも重要性の金額が小さくなってしまった会社では、監査法人から会計処理の誤りなどを指摘された場合や社内でも不正が発見された場合に、それが重要な欠陥になりやすくなったと思われます。

また、最終的な金額的重要性が大幅に小さくなってしまった会社は、期末近くになってから追加的な点検作業を強いられてしまい、点検作業が追いつかないということもあったのではないかと推測されます。

### 3. マネジメント・パワー・エクスチェンジ株式会社(MPX)について

弊社、マネジメント・パワー・エクスチェンジ株式会社(MPX)は、公認会計士として25年の経験を持つ代表を中心に、大手監査法人で10数年以上、会計監査とコンサルティングの両方の経験を積んだ公認会計士で構成し、活動しているコンサルティング会社です。以下のようなメニューで、皆様のビジネスのパワーアップをサポートしております。

#### 【パワーアップメニュー】

- ・ 内部統制構築支援(いわゆるJ-SOX対応を含む)
- ・ 内部監査支援
- ・ ビジネスリスク評価支援
- ・ 業務改善支援
- ・ 公開(IPO)支援
- ・ グループ企業管理支援(海外経験コンサルタント及び海外提携先により、海外対応も承ります。)

また、弊社グループのアームズ株式会社では、一般経理業務から会計、税務、内部監査、内部統制、英訳等の業務に対し、専門的知識及び経験がある豊富な人財を提供することで、各企業様の業務効率のパワーアップサポートを行っております。

【代表者】 宇佐美 豊 (公認会計士、公認内部監査人)

【住 所】 〒105-0004 東京都港区新橋 1-18-2 明宏ビル本館 4 階

【連絡先】 [info-mpx@mpx-group.com](mailto:info-mpx@mpx-group.com)

【H P】 <http://www.mpx-group.com/>